

小児のブルーライトカット眼鏡装用に関する眼科系6団体の発表に関する見解

2021年4月19日

日本医用光学機器工業会 眼鏡部会

日本眼科学会、日本眼科医会など眼科系の6団体による「小児のブルーライトカット眼鏡装用に対する慎重意見」という表題の発表に関して、日本医用光学機器工業会（以下「日医光」と略）として下記の見解をお伝え致します。

ブルーライト（青色光）の透過を減ずるタイプの眼鏡レンズが各社より発売され、世界的にも浸透しております。一般的に、可視光の中でも波長の短い青色光を減ずる効果があるレンズです。波長の短い青色光を減ずることで、光学的にはコントラストの向上や、光の散乱を和らげる効果があると考えられます。一方、眼鏡レンズは医薬品医療機器等法で規定された製品であり、治験を通した承認が無い限り、予防も含め特定疾患に対する有効性や効果効能を謳う事は出来ません。

青色光が眼に及ぼす影響については諸説あり、今回の6団体の発表にもある通り、メリットもデメリットも報告されており、様々な研究が進行中であると日医光では認識しています。眼への影響については、それぞれ根拠となる研究結果をご使用になられるお客様が充分にご理解いただいた上で、お客様の判断で青色光を減ずるタイプをお選びいただく事が重要であると日医光では考えます。

今回の眼科系6団体の慎重意見については、日医光として十分に尊重し、特に小児については医師の意見を聞いた上でレンズの種類をご判断いただく事を推奨致します。

小児以外の使用に関しては、お客様がメーカー各社のレンズの性能を充分にご理解いただいた上で、最適なレンズをお選びいただければと思います。

以上